

第3回

「家庭・地域の教育力向上に関する特別委員会」

人・もの・こととの出会い

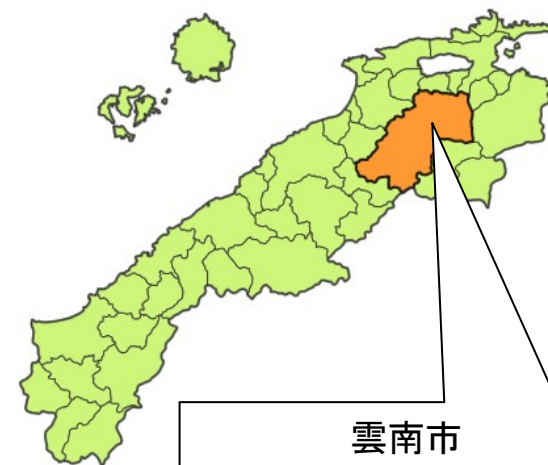


市の中心部である木次町の桜並木

雲南市教育委員会
教育長 土江 博昭

雲南市の概要

- 平成16年11月1日合併
(大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町)
- 人口・・・46,131人
- 面積・・・555.4km²
- 幼稚園・・・16園
- 小学校・・・25校(うち分校1校)
- 中学校・・・7校
- 公民館等生涯学習施設・・・29施設

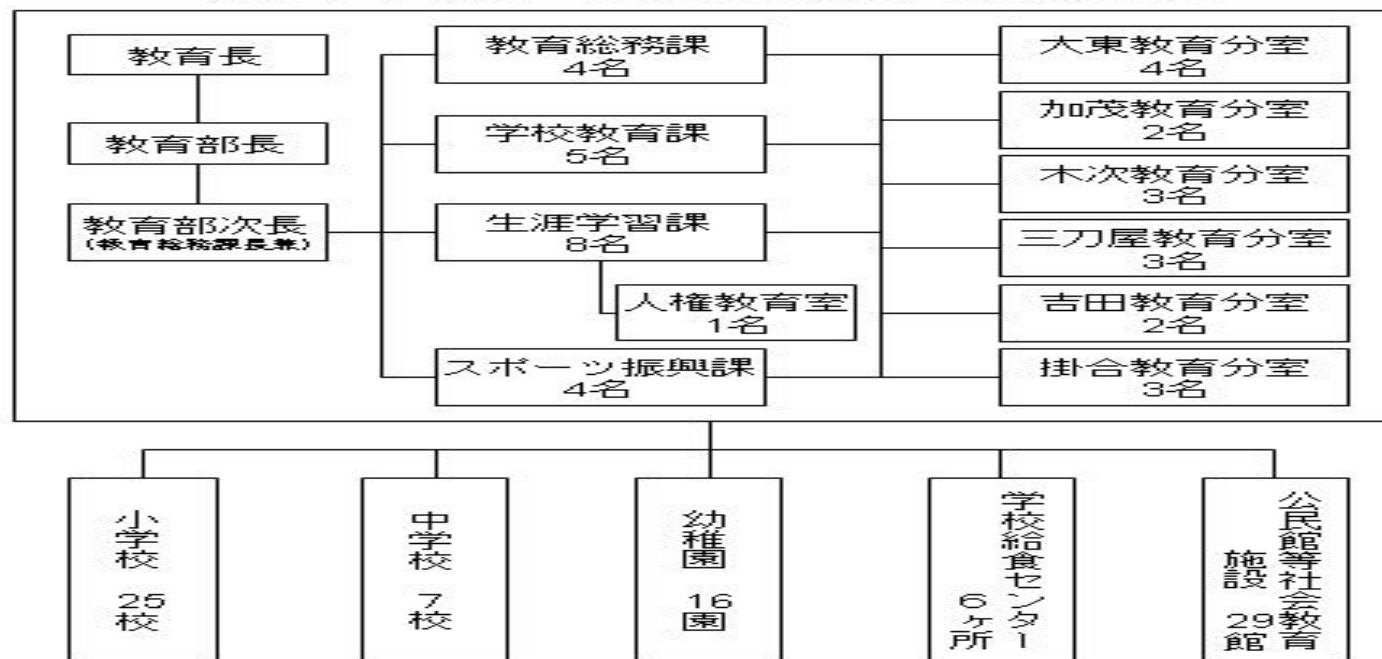


雲南市
加茂岩倉遺跡をはじめとする多くの遺跡や古墳、神社があり、地名の由来は、「出雲風土記」にたどることもできます。

生命と神話が息づく、新しい日本のふるさとづくり

教育委員会組織図

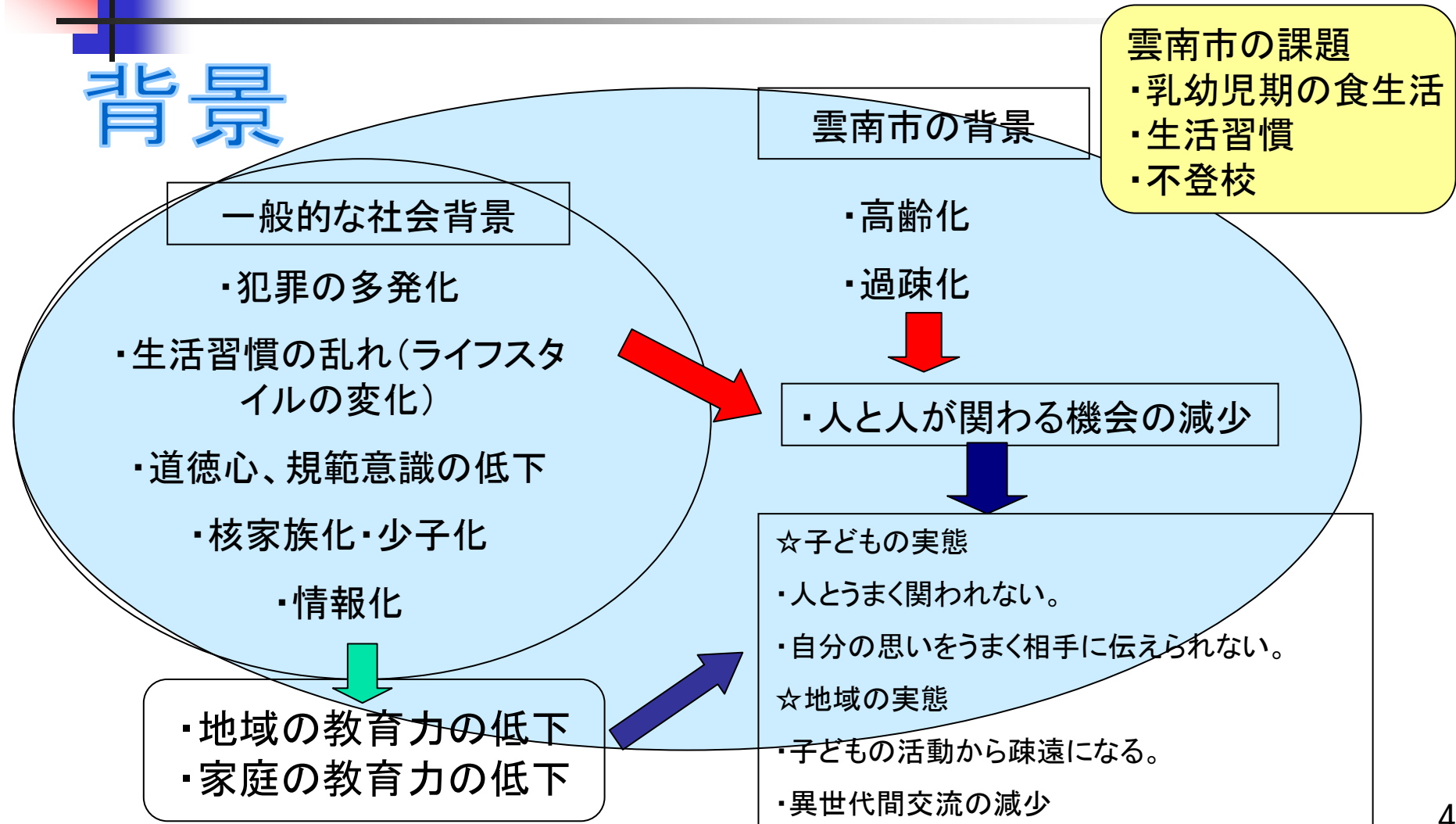
平成17年度 教育委員会事務局組織図



特色:教育分室の設置 指導主事の配置 地域教育コーディネーターの配置

今、なぜ居場所づくりなのか？

背景



重点プロジェクト

開かれた教育推進プロジェクト

「確かな学力」向上推進プロジェクト

ふるさと教育・一貫教育推進プロジェクト

英語教育推進プロジェクト

子どもの居場所づくり推進プロジェクト

不登校対応推進プロジェクト

生涯スポーツ活動推進プロジェクト

中三いきいきスクールプロジェクト

連携に関する協定書の締結

島根大学教育学部

重点プロジェクトの推進施策



子どもの居場所づくり推進プロジェクト

子どもの居場所づくり～地域子ども活動推進事業

- 市内の小中学校40箇所を実施→地域で子どもたちの「学び」「育ち」を支援
- 県の機関、児童福祉部局、警察署、島根大学等と連携した支援協会の活用

不登校対応推進プロジェクト

小規模市町村教育委員会広域化モデル事業（当初、6,000千円）

- 「不登校対応実践プログラム」の策定
- 市内の各施設を活用した学習の場の提供、居場所の創出、相談機能の強化等

生涯スポーツ活動推進プロジェクト

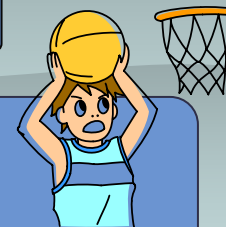
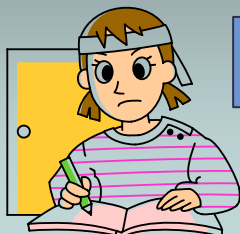
小規模市町村教育委員会広域化モデル事業（当初、6,000千円）

- 「スポーツ振興実践プログラム」の策定
- チャレンジデーをはじめとした生涯スポーツの普及・推進など

中3いきいきスクールプロジェクト

子どもの居場所づくり～地域子ども活動推進事業

- 夏期休業中における部活動を終えた中学3年生を対象に居場所の創出
 - 補充学習による基礎学力・学習意欲の向上
 - 広域スポーツ活動による競技力の向上





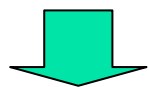
「子どもの居場所づくり」は、地域・家庭の意識改革の大きな目玉

■ 教育改革の大きな二つの目玉

教育改革の大きな目玉

総合的な学習の時間

- 学校が地域に目を向ける
- ・教師の意識改革
- ・開かれた学校づくり

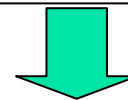


学校の教育力の向上

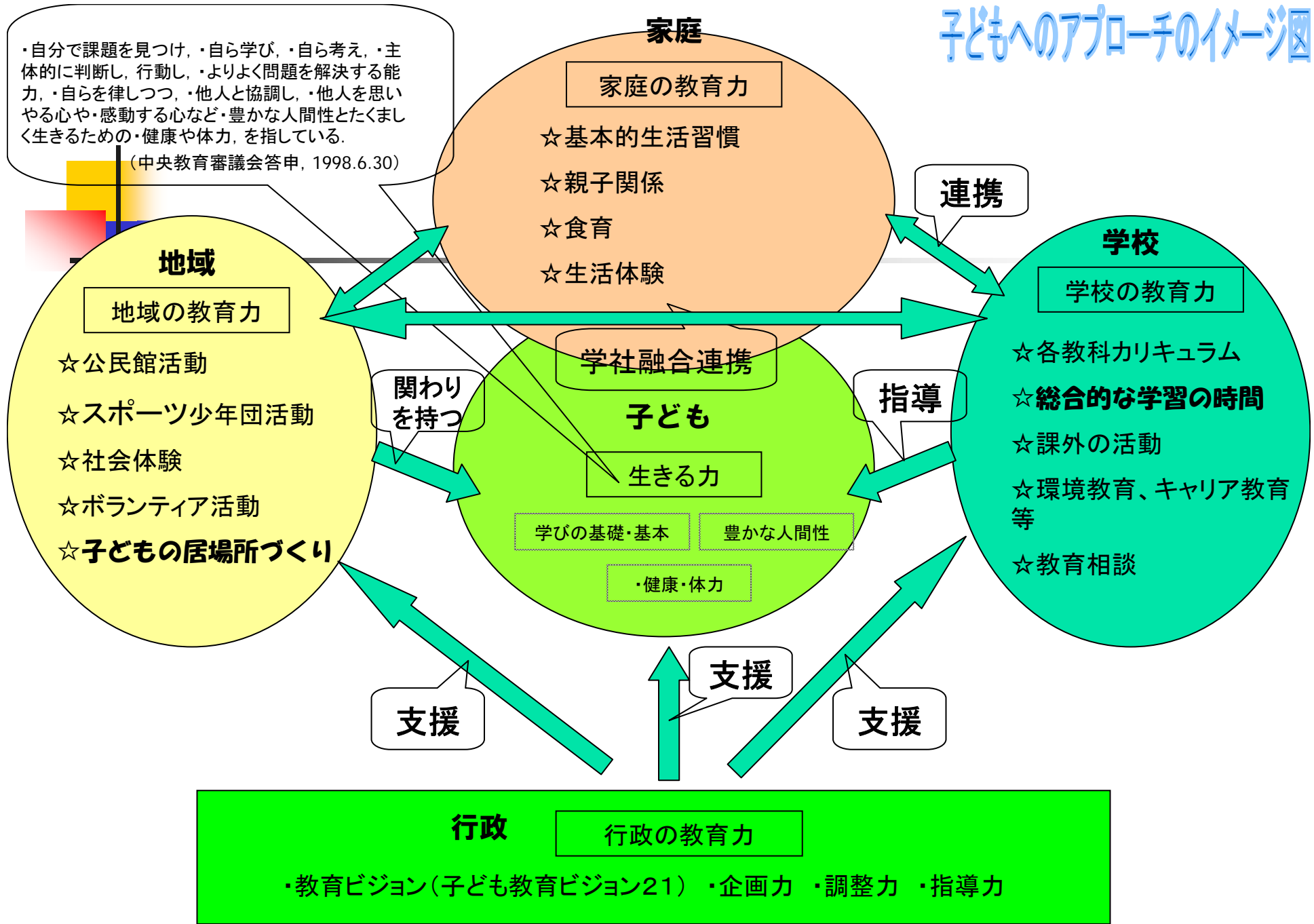
地域・家庭の教育改革の大きな目玉

子どもの居場所づくり

- 地域・家庭が学校に目を向ける
- ・保護者、地域住民の意識改革
- ・開かれた地域づくり



地域・家庭の教育力の向上





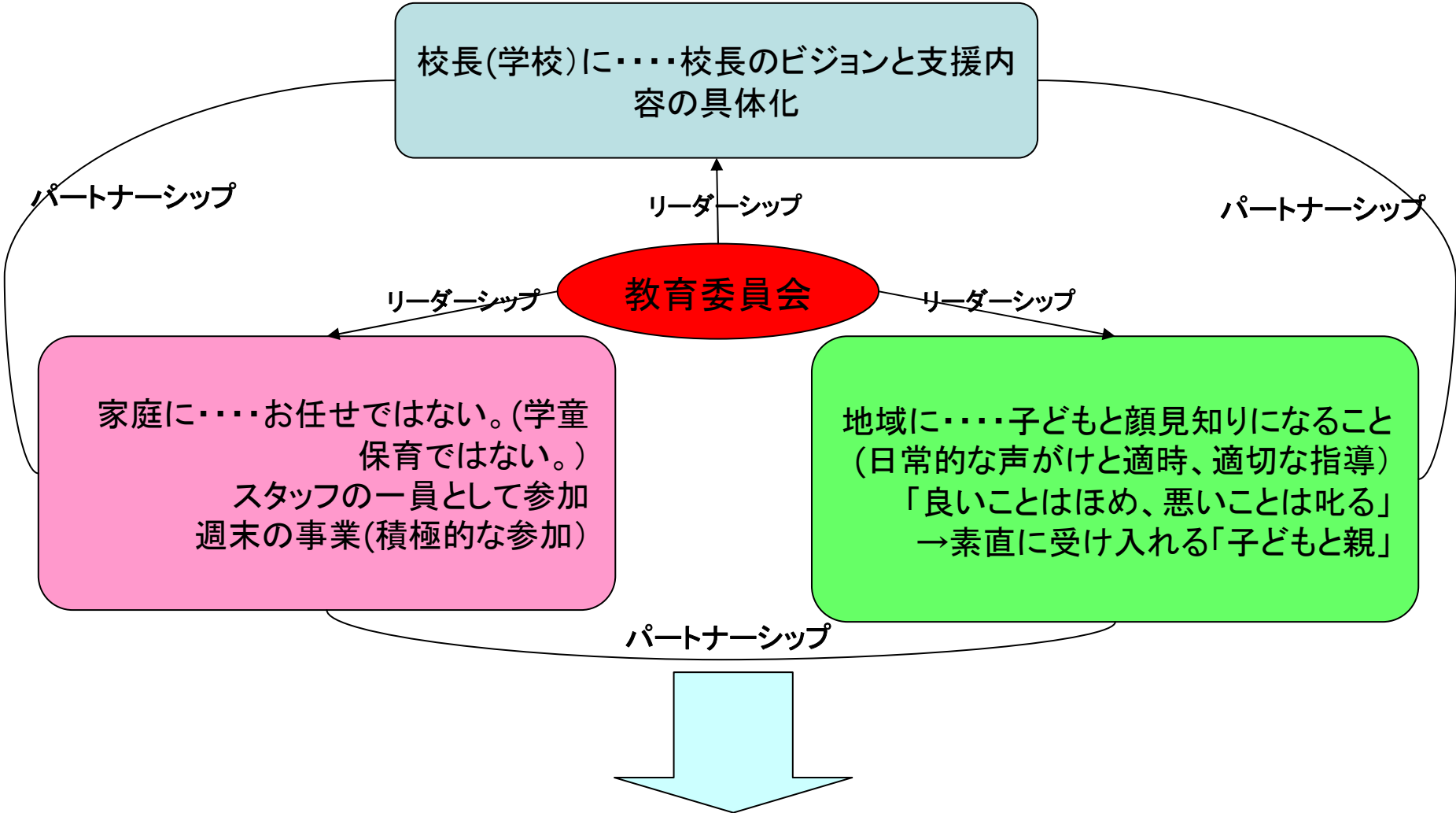
居場所づくり事業の捉え方

子どもたちのための放課後の安全な場所を確保する「装置」ではなく、子どもたちが安全に楽しく過ごせる「仕掛け」である。

単なる公民館活動ではない。

学童保育ではない。

雲南市としての方向性(子どもの居場所づくりについて)



『地域における総合的な学習の時間』としての位置づけ



居場所を通じた地域づくり

- 平成17年・18年度の2カ年事業

小・中学校区等に40箇所の居場所開設

雲南市の特色

- ☆小・中学校区に開設

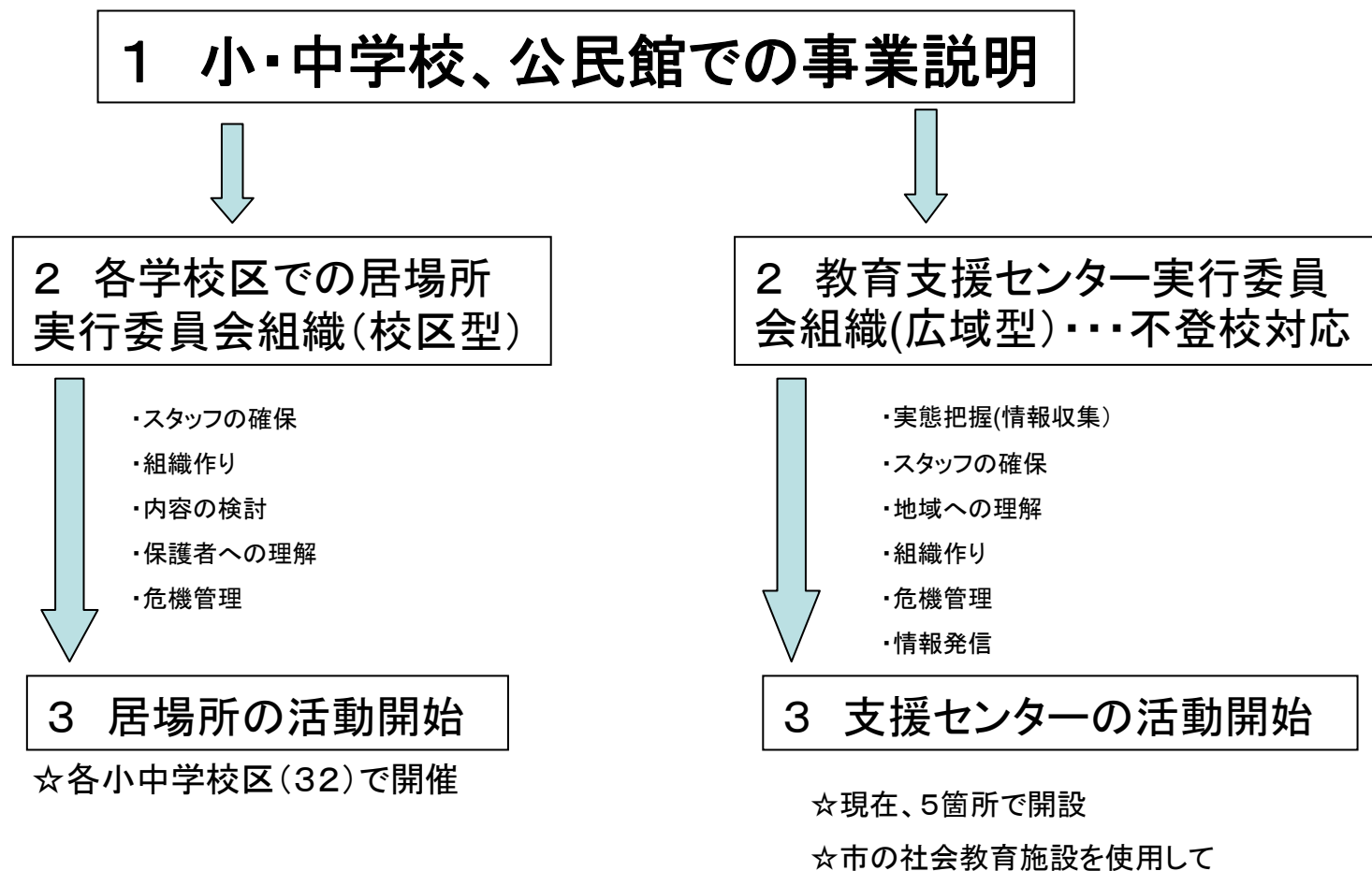
(学校に地域に目を向けてもらう)

(地域も学校の現状を知ってもらう)

- ☆居場所としての教育支援センターの開設

(不登校児童・生徒に対する居場所づくり)

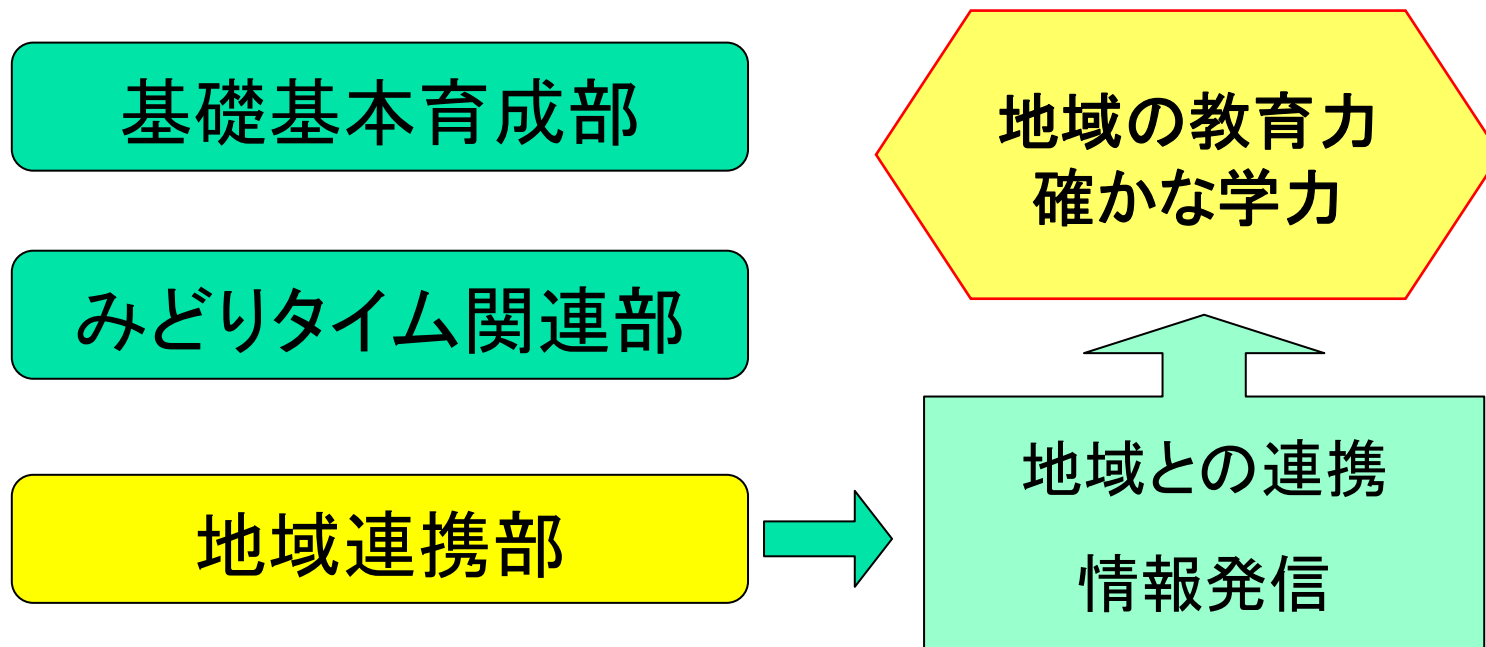
立ち上げまでのステップ



学校と地域が連携した取り組み

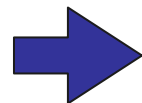
(加茂小学校での実践)

学校組織に『地域連携部』の設置



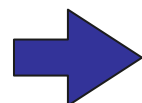
地域連携部の活動

会合



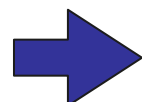
会合の計画・開催

情報収集



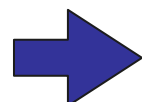
人材リスト作成

連携支援



連携の推進・支援

情報発信



HP・情報誌作成

活動の実際

■ 雲南市内それぞれの活動の様子



居場所づくり実行委員会

- ・危機管理
- ・スタッフの確保
- ・活動内容等

熱心に話し合いをしていただきました

活動の実際1



雲南市での成果

参加している子ども自身について

- 子どもがたくましくなった。
- あいさつが今まで以上にできるようになった。
- 子どもに安定感が出た。
- 大人に対して親しみを持って接するようになった。
- 学校よりものびのびしているように感じる。
- 仲間意識が強くなった。
- 夕食時の話題になり、家族の会話が増えた。
- 学年の上下にかかわらず、対等な交流ができている。



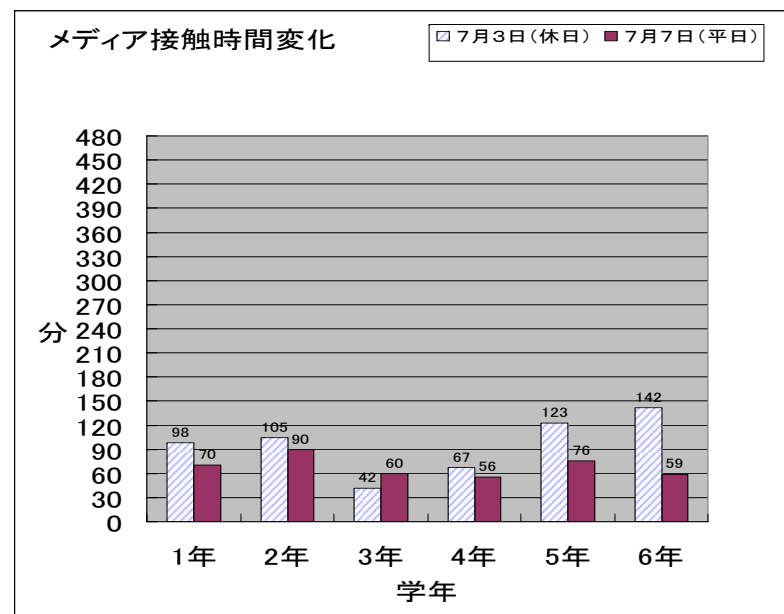
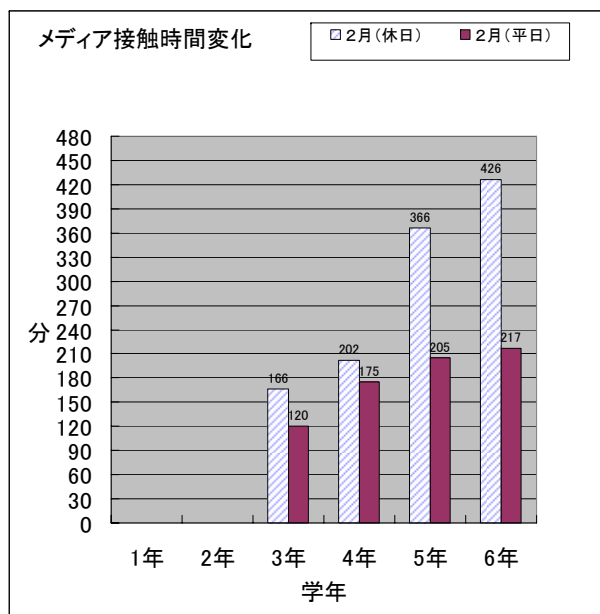
雲南市での成果

地域についての成果

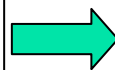
- 大人自身の楽しみの場となっている。
- 地域の子どもを見守ろうという姿勢が生まれた。
- 子どものことを考え、本気で語り合う場ができた。
- 子どもに対する関心が高まった。
- 高齢者とのふれあいが増えた。
- 学校との接点ができた。
- スタッフ同士での交流ができ、よかった。
- 遊び場や遊ぶ友だちがない地域の子どもたちの受け皿ができた。



小規模校での「子どもの居場所づくり」を活用した ノーテレビDAYの取り組み



子どもの居場所づくり
ノーテレビDAY
この2つの取り組みが
有効に機能することで



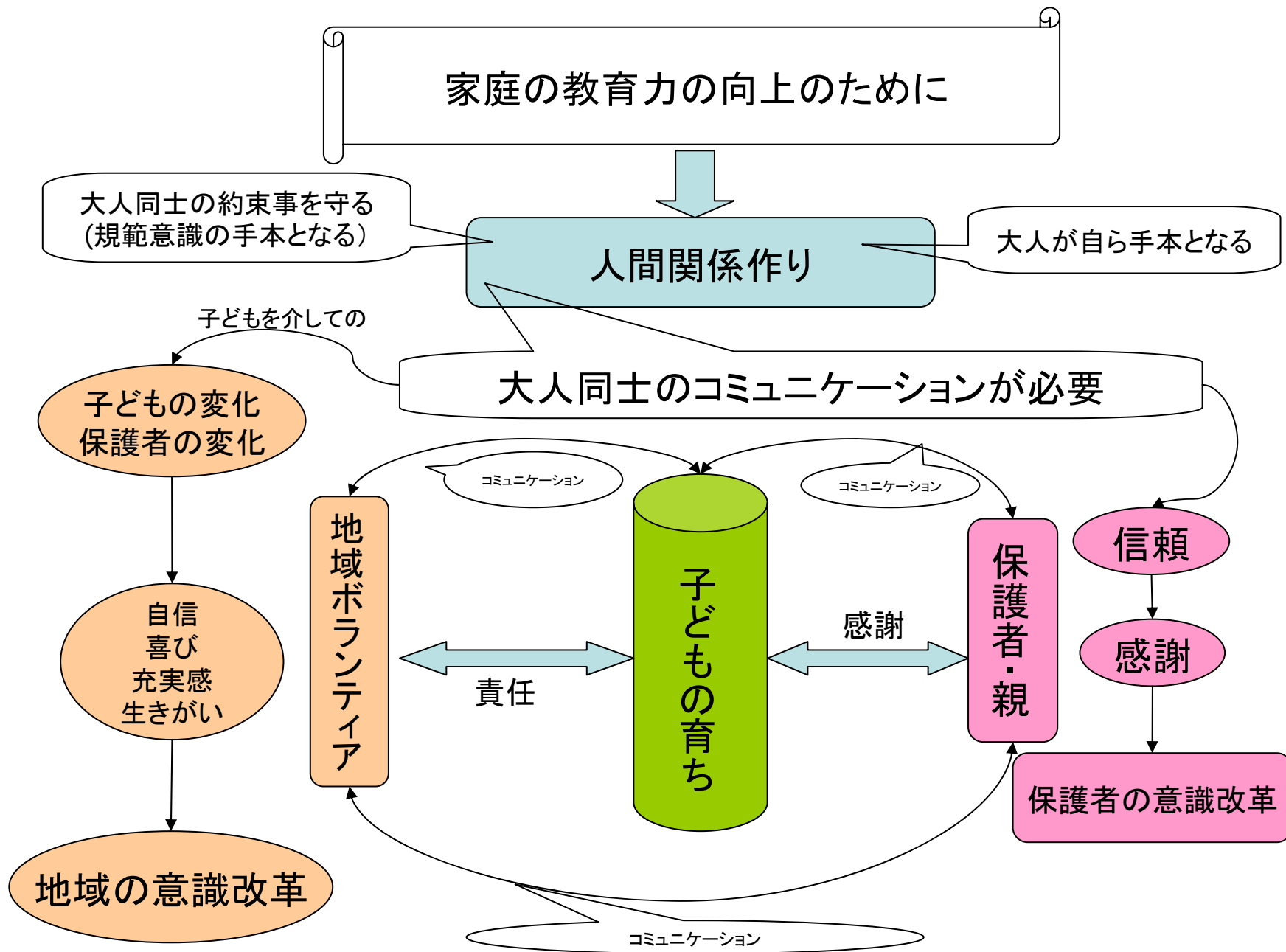
○子どもたちの変容

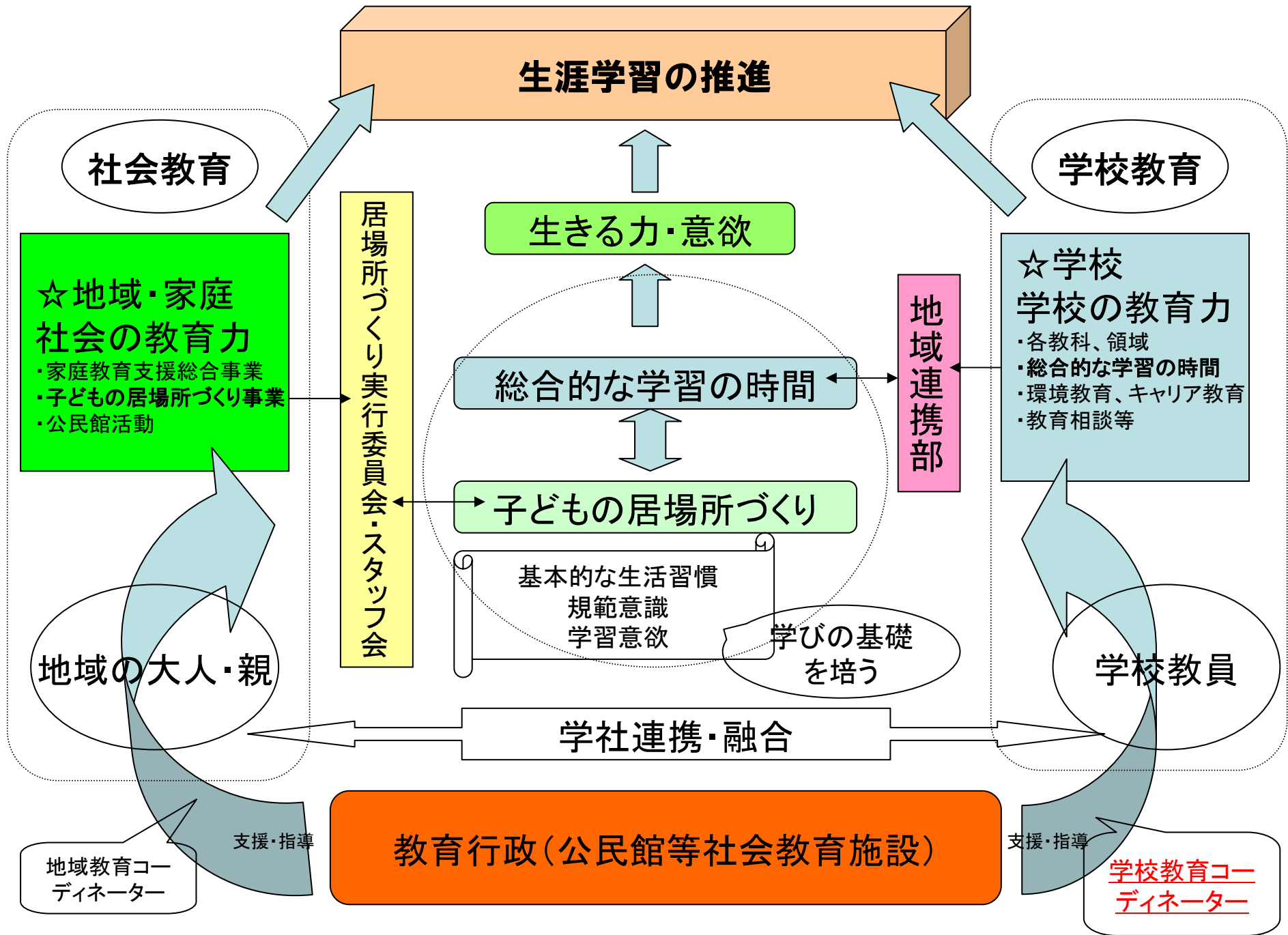
- ・授業中に落ち着きが出てきた。 ・親子の会話が増えた。 ・人と関われるようになってきた。
- ・表情が豊かになってきた。 ・学習や遊びに対し意欲的になってきた。
- ・外で遊ぶ楽しさがわかるようになってきた。 ・集中力がついた。
- ・外遊びに目が向くようになった。 ・子どもと話すことで精神的にも安定してきた。

今後の課題

- スタッフの確保
- スタッフに対する研修の充実(大人のかかわり方の共通理解)
- 怪我に対する配慮等、スタッフの意識向上
- 子どもの思いとスタッフの思いが合わないことがあった
- 今後継続させるための組織作りや予算確保
- 放課後児童クラブとの連携・共存
- 地域の大勢の方に参加してもらえ活動にしていけることが地域の活性化につながる







今後の「子どもの居場所づくり」へ望むこと

- ・生活習慣の乱れ
- ・少子化による子供同士の交わりの減少

幼児の参加

- 異年齢交流の拡大
- 親子の交流の拡大
- 子どもの生活習慣の適正化

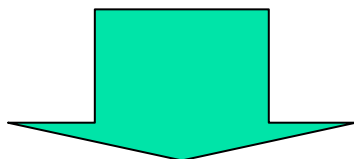
学校コーディネーターの設置 (仮称 生涯教育教諭)

☆学校教育法改正による教員

- 学社融合・連携の推進
- 栄養教諭との連携
- 教員の意識改革
- 生涯学習の基盤づくり

教育行政としての施策提言 (雲南市の展望)

拠点中学校に 「行政職員の配置」



- 教育行政と学校教育の一体化
- 学校支援、学社融合・連携の推進
- コミュニティスクールへの基盤づくり
- 教員の意識改革(地域の教員)
→県費負担教員という意識地域離れ